

【アーティストサポート】を通して、アーティストたちの活動をご支援いただき、ありがとうございます。
時や国を超え「生きる力」を与えてくれる文化・芸術に、引き続きのご支援をお願い申し上げます。

ご支援をいただいた個人ならびに企業・団体の皆さま

<2023年度年間サポート>

F.A E.A Y.A T.I 井上 豊 今井良成 S.U 植原由起子 S.U M.E A.O K.O S.O
片山由美子 E.K 河村はるみ K.K 木村美明 M.K 小室秀夫 N.S 新貝康司 鈴木健二 N.S M.S
関根一祿 A.D 田中治郎 土屋涼子 トゥルーラブ真智子 トゥルーラブ真凜 N.N 中島 和 中野和枝
中村尚義 中村美穂 新倉啓介 T.H 樋口美枝子 N.H M.H 平山美由紀 藤野盾臣 細沼康子 M.H
松尾芳樹 松田 香 S.M 真野美千代 三橋祐太 J.M H.M H.Y S.Y 渡部伸子
TDK株式会社 MEDIHEAL & SEKIDO コンツェルトハウス・ジャパン by 株式会社キタマ
株式会社ソーシャルキャピタルマネジメント 株式会社ロジックアンドエモーション
ライフブラン株式会社 Heart of the Earth株式会社
ナレッジワーカーズインスティテュート株式会社 株式会社RINABO きづきアセット株式会社
株式会社青林堂 日本パレレフスキ協会淡路
(匿名希望 34名)

<ショパン・ピリオド楽器プロジェクト>

S.O 北村真 トゥルーラブ真智子 平山美由紀
(匿名希望 5名)

<舘野泉バースデープロジェクト>

Y.A 阿部将任・登美子 新井京子 池田光世 一柳吉子 A.I 遠藤一秀 大嶋早苗 大嶋浩美
大谷恵美子 S.O 奥田三華 小畑裕子 木全恵美子 久保春代 M.K 黒川智恵美 黒住彰子
斉藤久子 坂井和 佐々木暁子 菅原佳世子 鈴木早苗 R.T 田口雅子 田邊英利子 土谷美保子
永作稔 中村恭子 中村康江 K.H 羽生賢次 林雄嗣・鈴子 福島晶子 堀田高秀 松田純子
三上美智恵 光永育 K.M 山家七恵 S.Y K.Y 吉岡玲子 吉田和充・淳子
舘野泉ファンクラブ東京 舘野泉ファンクラブ東北 タビオラの会 日本セヴラック協会 有限会社ムジカーザ
NPO法人 Mプロジェクト スオミ・ピアノ・スクール研究会
(匿名希望 20名)

<ニュークラシックプロジェクト>

浅岡尚子 岩井睦雄 上原啓子 小田島容子 K.K 久保千聖 雲然祥子 小池美喜 篠崎啓史 I.S T.S
トゥルーラブ真智子 トゥルーラブ真凜 T.N 長谷部 宏行 秦勝重 T.H 林 路郎 細沼康子 牧野佳那
松下泰之(マテイビ) S.Y
(匿名希望 14名)

2024年3月1日現在 敬称略

ご支援についての詳しい内容は、どうぞ下記へお問い合わせください。

株式会社ジャパン・アーツ アーティストサポート係 Tel.03-3499-7720

(平日11:00~17:00 年末年始を除く)

アーティストサポートの
詳細はこちらを
ご覧ください。



上原 彩子

Ayako Uehara

ベートーヴェン ピアノ・ソナタ全曲演奏会 Vol. 1

Beethoven Complete Piano Sonatas

2024年3月9日(土) 午後2時開演

東京文化会館 小ホール

2:00p.m., March 9, 2024 at Tokyo Bunka Kaikan Recital Hall

主催：ジャパン・アーツ

協力：キングレコード

PROGRAM

ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ L.v. Beethoven: Piano Sonata

第1番 へ短調 Op.2-1

No.1 in F Minor, Op.2-1

- 第1楽章：アレグロ
- 第2楽章：アダージョ
- 第3楽章：メヌエット、アレグレット
- 第4楽章：プレスティッシモ

第2番 イ長調 Op.2-2

No.2 in A Major, Op.2-2

- 第1楽章：アレグロ・ヴィヴァーチェ
- 第2楽章：ラルゴ・アパッシオナート
- 第3楽章：スケルツォ、アレグレット
- 第4楽章：ロンド・グラツィオーソ

第19番 ㄗ短調 Op.49-1

No.19 in G Minor, Op.49-1

- 第1楽章：アンダンテ
- 第2楽章：ロンド、アレグロ

第20番 ㄗ長調 Op.49-2

No.20 in G Major, Op.49-2

- 第1楽章：アレグロ・マ・ノン・トロppo
- 第2楽章：テンポ・デイ・メヌエット

第3番 ハ長調 Op.2-3

No.3 in C Major, Op.2-3

- 第1楽章：アレグロ・コン・プリオ
- 第2楽章：アダージョ
- 第3楽章：スケルツォ、アレグロ
- 第4楽章：アレグロ・アッサイ

ごあいさつ

巨大な宇宙を音楽を通じて表現できる作曲家、ベートーヴェン。彼の32曲のピアノソナタは、それぞれ全てに新たな挑戦と創意工夫、コンセプトが見てとれます。彼が、いかに貪欲に学び、そこに斬新なアイデアが加わることで時代を切り開いていったか。そして、それを次々に形にして音楽の高みに昇華させていけるところに、彼の偉大さを感じます。

ベートーヴェンの32曲のピアノソナタには、もう既に星の数ほどの名演があり、ここで何も私が弾かなくても…という思いが何度も頭をよぎりました。

しかし、自分の手で取り組まなければ見えてこないベートーヴェンの奥深さ、世界の広さがきつとあるに違いない。そして、その先には自分の成長、私自身の音楽における新たな世界が広がるかもしれないという希望を捨て去ることが出来ず、このシリーズに挑戦することにしました。

このシリーズが終わる頃には、私の年齢は彼が最後のソナタを作曲したのとはほぼ同じ年齢に近づきます。これからの数年間、この32曲一つ一つと丁寧に向き合い、終わる頃にほんの一步でもベートーヴェンの深遠な音楽に近づくことができているならば、嬉しく思います。

上原彩子

ベートーヴェン

執筆：上原彩子

ピアノ・ソナタ Op.2

1792年、ハイドンから教えるため、ベートーヴェンは故郷のボンから音楽の都ウィーンに出てきました。ハイドンはイギリスでの音楽活動が忙しく、また彼の指導内容にも満足できなかったベートーヴェンは、途中で先生を変えてしまいましたが、それでも彼への感謝の気持ちを込めて、このOp.2の3曲のソナタはハイドンに献呈されました。

この3つのピアノソナタは、様々な点で革新的で、それまでの常識とされていたものを打ち破りたい、新しいものを世に送り出したいというベートーヴェンの強いメッセージを感じることができます。また、ピアニストとして、ウィーンで一旗揚げたいというベートーヴェンの心意気もひしひしと伝わってきます。

まず、それまでは3楽章構成であったピアノソナタを、全て4楽章構成で書いています。ハイドンやモーツァルトは、交響曲ではすでに4楽章構成で書いていたので、ベートーヴェンはより規模の大きなオーケストラ作品の様なピアノソナタを目指したのではないのでしょうか。

また、同じ作品番号の中にある3曲ながら、それぞれが全く違うスタイルで書かれているところも、ベートーヴェンの新しいものへの挑戦という意図を強く感じます。

第1番 ヘ短調 Op.2-1

ベートーヴェンが作曲した32曲のソナタの中で、ヘ短調はこの曲と、有名な「熱情」ソナタの2曲だけという点からも、この第1番ですでに彼のキャラクターが色濃く打ち出されていることが分かります。

特に、第4楽章は、ベートーヴェンのエネルギーが炎のごとく噴出し、独創的です。

また、第1楽章は、第1テーマの上行形と第2テーマの下行形など、それぞれのパートが有機的に繋がり、音数が少ない分、よりベートーヴェンの構成美に対するこだわりが強く感じられます。そして、第1楽章は上行形で始まり、第4楽章の最後は同じ音を下り形で終わるといふ、4楽章を通じた大きなフォルムにも注目です。

第2番 イ長調 Op.2-2

まるで、チェンバロを連想させる表現と音色が特徴の、大変軽やかで温かな作品です。

この曲の最大の聞きどころは、「ラルゴ・アパッシオナート」と表示された第2楽章です。ここでは、まさにオーケストラの響きがピアノによって再現されていて、歌う弦楽器の下で、チェロとコントラバスがピツィカート奏を奏しています。それによって、響きに遠近感が加わり、より豊かな表情を感じることができます。

第1楽章は、休符という音楽における「間」、それから強弱の突然の変化を上手く利用した、ベートーヴェンのユーモアを感じることができます。

そして第4楽章。当時のピアノにおいては、ほぼ鍵盤の端から端までを駆け上がる様なパッセージを、優雅さの中にも取り入れました。

ベートーヴェンはこの曲で、自分のピアノの素晴らしい腕前をウィーンの人々にきっと強く印象付けたことでしょう。

第3番 ハ長調 Op.2-3

ピアノ協奏曲1番と同じ、ハ長調で、明るく意気揚々と、一点の曇りもない前進あるのみという若々しい作品です。

最大の特徴は、ピアノソナタに、まるで協奏曲を思わせるカデンツァが取り入れられていて、華麗なだけでなく、大変スケールの大きな作りになっています。

曲自体は、きつとこの曲でピアノの技巧が一步先に進んだに違いないという程に、華やかなパッセージが次々と繰り出されます。それまでは、ピアノの華やかな技巧と言えば速いパッセージが多かった時代に、重音や和音でのテーマを多く取り入れたことも、新しい試みだと思います。それによって、スケールの大きな曲がよりシンフォニックに響き、ピアノの倍音がより聞こえてくる、その様なピアノの効果を感じることができます。

また、当時のピアノでは、きつと効果が今より薄かったに違いないペダルの響きを、うまく取り入れている様な箇所が、どの楽章にも見られます。特に第2楽章の中間部は、ペダルによって、ただ暗いだけではない、厳かな表情が醸し出されます。

ピアノ・ソナタ Op.49

第19番 ト短調 Op.49-1、第20番 ト長調 Op.49-2

Op.49の2つのやさしいピアノソナタは、出版されたのが1805年で中期の番号が与えられていますが、作曲されたのは3番と4番の間と言われています。献呈の辞はなく、おそらく弟子のための練習曲として書かれたのではないかと考えられます。簡潔な書法で書かれている分、モーツァルトに近い響きを感じる、大変愛らしい作品です。

それぞれ、2つの楽章から成る作品ですが、全てト音の調（長調、ト短調）で書かれていて、Op.2の曲集とは違い2曲を通した一体感があります。

第20番、第2楽章メヌエットのテーマは、当時大流行した7重奏曲にも転用されていて、ベートーヴェンもお気に入りのテーマだったのかもしれませんが。

PROFILE



© 武藤 章

上原 彩子(ピアノ)

Ayako Uehara (Piano)

3歳児のコースからヤマハ音楽教室に、1990年よりヤマハマスタークラスに在籍。ヴェラ・ゴルノスタエヴァ、江口文子、浦壁信二の各氏に師事。第3回エトリンゲン国際青少年ピアノコンクールA部門第1位を始め多くのコンクールで入賞を果たす。

2000年3月、第5回浜松国際ピアノアカデミーに参加、ピアノアカデミーコンクールでは、アカデミー史上、初のグランプリを受賞。同年7月、シドニー国際ピアノコンクールにて第2位及びピープルズ・チョイス賞、オーストラリア人作品賞、室内楽賞、

ショパン賞等各賞を受賞。2002年6月には、第12回チャイコフスキー国際コンクール ピアノ部門において、女性としてまた、日本人として史上初めての第一位を獲得。第18回新日鉄音楽賞フレッシュアーティスト賞受賞。

これまでに国内外にて演奏活動を行い、2004年12月にはデュワ指揮NHK交響楽団と共演し、2004年度ベスト・ソリストに選ばれた。CDは日本人ピアニストとして初めて、EMIクラシックスと契約し、チャイコフスキーの作品を収めた「グランド・ソナタ」、フリーベック・デ・ブルゴス指揮のロンドン交響楽団との共演によるチャイコフスキーのピアノ協奏曲第1番及びプロコフィエフのソナタ7番等を取めた「プロコフィエフ作品集」がワールドワイドで発売された他、キングレコードより「上原彩子のくすみ割り人形」「ラフマニノフ 13の前奏曲」「上原彩子のモーツァルト&チャイコフスキー」「デビュー20周年記念コンサート・ライブ盤」がリリースされている。

2006年1月10日には「日本におけるロシア文化フェスティバル2006」オープニング・ガラコンサートでゲルギエフ指揮マリンスキー管弦楽団と2007年1月にはベルリン・フィル八重奏団と共演、また、2008年9-10月にはクリスチャン・ヤルヴィ指揮ウィントーンキュンストラ管弦楽団とのオーストリア及び日本ツアーを行ない、2017年3月には、ベルリン及び日本国内4都市において、エリアフ・インバル指揮ベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団と共演、高い評価を受けた。東京藝術大学音楽学部 早期教育リサーチセンター准教授。令和4年度文化庁長官表彰受賞。

オフィシャル・ホームページ：<https://www.japanarts.co.jp/artist/AyakoUEHARA>